



金沢百万石

Kanazawa Hyakumanqoku

Kanazawa Million Weekly Bulletin No. 0278 3.25 2004

2/29(日)に事務所の引っ越しをしました。

韓国に行ってきます。 3/26 出発

金沢市ジュニアバドミントンチーム

金沢百万石 RC と韓国南光州 RC の共同プログラムでの少年バドミントン親善交歓会は金沢市や金沢市バドミントン協会等の協力を得て3/26 出発 3/27 は光州市、3/28 は金沢市の姉妹都市の全州市で交歓試合をします。石丸会員と金会員は少年少女達とコーチの武田恵子さんと竹田京子さんらと共に山出市長を訪問しました。市長さんにはこやかに小さなゲストに、「ピビンパはおいしいから沢山たべて友好交流に頑張ってください。」とを励ましました。



会員消息 3/20 ~ 3/28 坂口國男会長の退官記念展。 (豎町美術サロンゆたか)

豎町の東京ストア 4 階にあるサロンでは坂口國男先生の 50 点の力作の美しい絵を拝見させていただきました。定年後も金沢を愛して、お気に入りの太陽が丘のアトリエで制作に励まれます。



予定 例会 その他

- 3/25 金沂秀会員 『人生は白鳥の湖!??』 韓国語
- 4/1 高木真理子様 子ども夢フォーラム代表 韓国語
- 4/8 鈴木薫氏 北陸総合通信局長 理事会 韓国語休み
- 4/15 ウィーンリンク RC シューベルト氏ら 韓国語休み
- 4/22 下郷 稔氏 韓国語
- 4/29 休会 韓国語休み
- 5/6 祖泉 淳 メイクアップがジャパン 韓国語

ウィーンリンク RC のシューベルト氏ら来る
4/15 の例会はウィーンフィルハーモニーのバイオリン奏者でロータリアンの氏を迎えます。

会長：坂口國男 会長以外：炭谷亮一 直前会長：吉田昭生 副会長：二木秀樹 幹事：前田宏智
 副幹事：魏賢任 野城勲 会計：池田裕之 監査：後出博敏 SAA：谷伊津子
 理事：クラブ奉仕委員長：西村邦雄 職業奉仕委員長：北山吉明 社会奉仕委員長：土田初子
 国際奉仕委員長：二木秀樹 新世代委員長：村田祐一 会報広報：石丸幹夫 RC 情報：三浦雅博
 増強拡大委員長 石丸幹夫 修練選考 木場紀子
 企画委員長 大平政樹 親睦委員長 金沂秀 友好委員長 岩倉舟伊智 事務局 相川晶代

例会場 ホテル日航金沢 5F 〒 920-0853 金沢市本町 2-15-1 T076-234-1111 例会日時 木曜日 19:00

事務室 ライブ 1 ビル 2F 〒 920-0852 金沢市此花町 3-2 T262-2211 F262-2241

E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp

ホームページ URL http://www.hokuriku.ne.jp/million/

事務局執務時間 月火水金 10:00 ~ 16:00 木 15:00 ~ 20:30 休憩時間 12:00 ~ 13:00 休日 土日祝日



例会便り

ホテル日航 5F
通算 278 回
出席 24/43 55.81%
2月修正出席率 82%
2004.3.11

点鐘

SONG 手にてつないで
どこかで春が

四つのしるべ

- 1.手を貸そう。
- 1.感謝の声をかけあおう。
- 1.親睦と友情を深め、自己の向上に努めよう。
- 1.地域社会に奉仕し、クラブの存在価値を高めよう。



会長挨拶 私もいよいよ退官です。記念の展覧会とパーティに来て下さい。
事務局からですが蛍光灯などの備品の余った物があります。皆様が必要ならもって行って下さい。
ピジター なし **特別ゲスト** なし
幹事報告・委員会報告 なし

ニコニコBOX ¥8,000 本年度合計¥597,235 残高¥4,078,259

炭谷会長エレクト 医療フォーラム楽しみにしています。竹田会員 炭谷会長エレクトの御子息のご結婚を祝して 北山会員 本日のフォーラム美りありますよう・・・炭谷さん、おめでとう。江守巧・道子会員 先日ICOI（国際インプラント専門医学会）の認定医試験があり、無事合格しました。6月にラスベガスで国際学会の席で認証式があるので、出席したいと思っています。



講話の時間

職業奉仕委員会による『本音で語る医療Q & A』

司会 北山吉明職業奉仕委員長

整形外科と形成外科の違い。 東山卓嗣

整形外科は、人間の体の支持組織を中心に扱う科で形成外科は、軟部組織を中心に扱う科です。つまり骨、関節は、整形外科、皮膚、皮下組織、筋肉などは形成外科ということです。腰痛、膝痛は整形外科を受診しましょう。もちろん人間の体ですから、オーバーラップしています。

内科と心療内科の違いは 江守巧 心療内科は精神科から発生したものです。西村邦雄 実際に異常がないのに 異常と訴える。炭谷亮一 話だけでの診療は健保でなかなかカバーしてくれない。谷伊津子 腰痛が心療内科で良くなった話。



ペインクリニックとは 北山吉明 麻酔科の医師が多い。癌末期の自宅療養を可能にします。

総合診療科 宮永満祐美 これがあると便利ですが。村田祐一 病人のふり分けの出来る医師。米国のまねですが、今はかかりつけ医が担当します。高山病 吉田昭生 チベットの経験ですがお粥と梅干しが良く効きます。オッパイの大きい人は高山病にならない様です。

癌が発生 炭谷亮一 「私は肺癌になりました。扁平上皮癌です。内臓や脳にも転移してしまいました。助けて下さい。いい病院を紹介して下さい。」

皆あまりに急な話で沈黙、山下公一 テキサスのガンセンターは世界的です。これは少し早かったエープリルフル。扁平上皮癌と全身転移等少し話はおかしい。



かかりつけ医 西村邦雄 25年間 家族を皆みています。斎木妙子やはり近所の医師が良いのでは 斎木妙子 注射が痛くて通院をやめた。歯科 美容外科

保険証なしでの診察 かんじゃさんの気持ちもわかるが、保険証もなく現金もないでは どうしようもない。

セカンドオピニオンの話 北山吉明 今では医療界は常識。

時間外診療はやはり怖い時間帯、手薄で医療事故多発時間。石丸幹夫 解決には医師がグループで診療しないと体がもたない。疲れた医師にめと鞭で奮起せよという政治行政はだめ、忙しい医師もひまな医師もいるが皆時間的拘束をうけていることには間違いはない。患者さんによりよく対応すべく医療機関再編成すべき時期に来ているのかもしれない。一番有効な手段はグループ診療に税制のメリットをつける事です。



点鐘

会員エッセイ

「究極の旅は田舎暮らし」株式会社アトラス旅行 代表取締役社長 木村 幸生

昨年4月、家内と、ナンシー市郊外の田舎へ行く機会があった。

以前「フランスの田舎の旅は格別でとても魅力的」とフランス人から聞いていたので、ふと思いたった。

フランスには、ちょっとした1週間程度の休暇に、家族で泊まる「シャンプドット」という民宿農家組合みたいな農家貸しシステムがある。広大な牧場が併設されており、周りの景色は、のんびりとしたフランスの田舎の田園風景が続く牧歌的な環境で、その村々には天空を突き刺すような尖塔のある教会が、緑と青空のコントラストに映え、得も言われぬ美しさだ。つまり、どこをとっても絵になるのである。

そんな中で、「旅をする」というより、「ほんのしばらく身を浸してみたい」という新しい旅のスタイル、生活体験があってもいいのではないかと思った。

ホテルとは違って、事務的ではなく、かといってホームステイみたいな、かしまった緊張感はなく、おとうちゃん、おかあちゃん二人が仲良く、本業である牧場のかたわら経営されている民宿農家で、われわれとの適度な会話があっここちよい。

「わしゃ、日本なんて行ったこともない。先祖代々受け継いできたこの牧場が好きで、ここを死ぬまで離れることなく守るのさ」というような調子で、ご主人との食事の会話は弾む。

夕食には奥さん手作りの名物料理「キッシュ(卵料理)」と、子牛のグリルに、ブルゴーニュのブルミエ・クリュクラスの赤ワイン・フルボトル1本が出て、大満足の晚餐だった。

また、テーブルセットには、畑に咲いている花を一輪さりげなく置いてあり、黄色と茶色をうまくカラーコーディネートしたテーブルクロスには、それに合わせた食器がひとつひとつ趣味良く置かれてあり、小洒落た室内装飾とあいまって、とても雰囲気のあるセンスのいい部屋になっている。「味わう」楽しめと、「見る」楽しみを同時に体験することができる。片田舎の農家でも、フランスはさすがおしゃれなのである。

そして翌日の朝食はというと、パンは、ご主人が早朝の牧場の仕事を終えたあと、町のパン屋さんへ出来立てのパンを買出しに行ってくれたものだ。クロワッサンなど本当においしかった。それから、ミルクはといえば当然黙っていても、自分の家の牛の絞りたての甘くておいしい絶品ものが出される。チーズは地元ならではのDOC クラスのもの。なかでもシャウルスが一番おいしかった。

日本みたいに「グルメ」と称して、やたらめったらバカみたいに食べるのとはまったく違う、質をともなった食事なのだ。

そんなこんなで、精算はしめて、なんとなんと日本円にして一人4,800円だ。

これなら、こんな安さなら、夏の長期バカンスシーズンに、家族そろって5日や1週間は泊まることできる。ここを拠点として、じはらく田舎を楽しめばいい。少しあきたら町へ出かけて行ってもいい。

もちろん4ツ星ホテルみたいに、ドアマンやポーターもいなければ、コンシェルジュもいないし、施設もハイテクのテレビセットや豪華な絨毯もないし、りっぱではないけれど、それじゃみじめかということ、そのひとつひとつのクオリティ・質は、前述のとおりとても大変満足のできるものである。あたたかい家庭の雰囲気とか味が伝わってくる何とも心地の良い空間なのだ。いわゆる手作りの「ホームメイド」がそこにあるわけだ。

さすがバカンスの国フランスという気がした。フランス人は安くてもうまく人生を楽しむ術を知っている。というか、国をあげてそのシステム作りを力を入れている。国もまたそういう民宿組合には、広報の面でも金銭的に助成しバックアップしている。国があげた利潤をそういった自然環境や都市環境に投入しているのだ。

なんとすばらしい旅文化なのだろうか。まさしく、「究極の旅」であった。

会員の原稿をどしどし下さい。紀行文、時事評論、政治論、行政論、趣味の随筆、写真 絵などなんでも結構です。事務局または石丸まで

